

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	どんな時でもあなたの住み慣れたこの地域の中であなたと共に笑い、共に泣き、共に手を取り合って進みます。なんととってもあなたの笑顔がうれしいから	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者:特に困難時には、この理念を思い出し、利用者の心に寄り添っているかを確認し、職員もそれを念頭において利用者とは接するようにしています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	クリスマス会には家族の方、地域の方などに参加して楽しんでます。行事を通して地域の方との交流の中で理念に基づいた介護を理解して頂くようにしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方と普通に接しています。散歩の途中で畑の仕事をされている方と立ち話しをしたり、職員と同級生の方が住んでいたり、知人がいたりしているため、井戸端会議的に話したり、近所のお肉屋さんにお肉をお願いしたりと普通のお付き合いをしています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として構えることなく、地域の一員として会費を払ったり回覧板も届けていただいたり、地域の子供会がお神輿を担いで来てくださったりクリーン指宿などにも参加しています。又、六月灯の灯籠づくりにも参加させていただいています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近くの認知症の方が行方不明になられた時などのネットワーク事業に参加しており、実際にも探すのに協力したりしております。また、運営推進会議等も利用し、公民館長さん達とも密に話し合いをしています。	○	地域に開かれた高齢者の憩いの場所となれるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング、申し送り時に結果報告したり、今後の改善や取り組みまで話し合っています。	○	事故評価を意識して行動するだけでなく、自分達の身についての行動として発展させたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティング、申し送り時に結果報告している。取り組み事項はミーティング時に行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営面について疑問に思う事や相談事があった場合、市の担当者に相談しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を担当していた職員がいました。又、実際利用されている利用者の方もおられるため、ある程度は理解し、必要な方など成年後見制度の利用も考えております。	○	さらに知識を深めていきたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の方の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員も皆、虐待防止については意識しており、ミーティングでも話し合いを持ち、利用者の方の状態を見逃さないようにしています。又、虐待にはいろいろあることも勉強するようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	十分にいき、ご家族の面会時などの時も必ずお話をさせていただいています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書とともに入居者の健康状態等を記したものをご家族に送付している。また、便りを発行しており、行事報告やお知らせ、入居者の写真を掲載することで日頃の暮らしぶりを報告している。金銭管理についての報告は面会の際、出納帳と領収書を家族に確認してもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の一人一人が 家族との信頼関係を築くことを心掛け、来所の際には、積極的な声掛けを行い、話し合える環境作りに取り組んでいる。年2回開催される家族会では貴重なご意見をいただいている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティング時や個別の面接を行うことで、話しやすい場を提供し、幅広い意見や提案を聞く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ、介護に支障がない様、対応している。状況が変化する度に、話し合いを設け対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、異動は行っていない。離職の際は動揺のない様、配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会あるごとに研修を受けている。地域のグループホーム協議会の研修にも参加。法人内研修にも参加。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	指宿地区のグループホーム協会などを利用した管理者どうしのネットワーク作りや勉強会を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事の悩みなど努めて相談にのっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況に応じ皆が犬種に参加できるようにしている。	○ 資格取得を勧めている。今年度は特に介護福祉士と介護支援専門員に挑戦していただくようになっています。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず信頼して頂けるよう細かいことに注意しながらゆっくり話しかけ、困っていることや不安などを時間をかけゆっくり聴くことを心掛けて安心して過ごせるように努力しています。又介護支援専門員の方々にも情報をもったりしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が面会に来られたりした時などよくお話して頂けるようご自宅での生活を含めて共感をするようにしながら、信頼して頂けるように努力します。その上で困っているような事などお聞きします。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のその時の状態や家族の状況などよく観察したり、お聞きしたりすることで、密に連絡をとり、場合によっては、医療との連携も行ったりします。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しずつ職員との関わりをもったり、声かけをしたり、家族の方にお聞きしたり、必要であれば家族の面会を頻繁に取り入れたりしながら本人の気持ちを考えて介護しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の基、本人の残っている能力を最大限に生かすようにほめることを忘れず、お互いを支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	理念もあり、当ホーム入所の際には、利用者様を家族・職員と共に支えていきたいとの希望をお話させていただいております。又運営上でもご家族の方にはご協力をいただいております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様の気持ちを尊重しつつ、お互いの介護の苦労をねぎらいながらよりよい関係を築けるようご家族様の支援・相談も受けております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方、ご親戚の方、ご友人様などとお会いできるように声かけやお願いをしたり、お会いできる場所などに連れていったりと支援をさせていただいております。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションなどをおして他の利用者様との関係づくりをしております。又常に利用者様の様子観察を行い声かけ等積極的に行っております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事などのお知らせを手紙などで伝えています。又相談にみえたりもしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を把握できない方がほとんどですが、本人の表情・行動・言動を観察することで判断しております。又こちらから話しかけたりした、返事も参考にしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリー・センター方式のアセスメントを利用して家族の方にも協力をしていただき把握に努めています。職員も家族の方との会話等とおして把握し、共有するようしております。	○	認知症が重度になるほど必要性を感じます。その人が生き生きと暮らせるホームでありたいと願いもっとみんなで努力していければ良いと思っています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方のそれまでの暮らしを大切に、意思表示の困難な方の表情や様子に常に注意を払うよう努めています。又日々の心身状態に配慮しながら出来る事へは積極的に声かけを行っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は本人・家族の思いや希望を尊重した介護計画に努めている。その計画内容をより充実させるため、必要な関係者間で情報を共有しアイデアや意見を出し合っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、現状把握と介護計画の見直しを行っています。日頃から、職員の気づきや情報収集を行うため、話しやすい環境づくりに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を通して毎月のミーティング時で打ち合わせを行い、又それを基にして情報を共有し、介護計画にいかしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊など家族との連携の基、積極的に支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームの行事などをとおして、ボランティアの方のご協力をいただいたり、防災等についての消防の方々のご協力・防犯等の警察のご協力も行っておりしております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーとはつねに連絡を取り合い、医療などもしっかり行っております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例もあり、地域包括支援センターとはしっかり連絡をとり、協力もいただいております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ法人の医療機関もあり、24時間体制で連絡がとれるようにしております。又必要時には往診にも来ていただいたり、医療連携もあり、看護師の訪問も1回/W行っております。緊急時の対応もできるようにしております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同じ法人のDrが認知症サポート医であるため、常に相談・支援をいただいております。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の看護師を兼務として配置し、常に利用者様の健康状態の把握に努めています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携は密に行っております。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最初の面接時に確認を行い、面会時等を利用し、利用者様の状態をみながら職員も含めて話し合いをしています。最終的には医師の診断を仰いでいます。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に医療との連携を保ち、又、2回/Wの医師の訪問1回/Wの看護師との連携も密に行っていく中でかかりつけ医の指示等に従い入院などの手段をとっています。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の希望・本人の状況・体調など連絡票により、情報を交換し、退所前には十分に関係者との話し合いを行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様のプライバシーには十分に気をくばり、又職員間でもお互い気をつけるようにもうしあわせておりますが、気づいたときには注意しております。個人情報についても常に気を付けております。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人が答えやすいような問いかけをすることで、希望や自己決定ができるように心がけています。	○ 勉強会などを利用し、職員全員が、より高い介護力を身につけていければよいと思います。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の一日のリズムやペースにあわせられるようよくコミュニケーションをとり、一人一人のその日の状態や気分添いながら介護しています。又、その日によって日々の業務も変えるように融通しております。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の方に協力をいただいたり、理容師さんや、美容師さんに来ていただいています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなど利用者の方にもお手伝いしていただいております。出来る方は、お寿司の味付けなどもしていただいております。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	歯の悪い方、好き嫌いのある方などおられますので、その人に応じた食べ物や飲み物を準備し、お出ししております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレやポータブルでの排泄を支援しています。自分で失敗の多い方は排泄のパターンを職員全員が把握し、声かけや誘導を行っています。チェック表を利用しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3回/W入浴日を決めていますが、職員の人数の関係もあり、希望の時間の入浴は危険を伴うことも多く困難ですが、利用者からの要望がある場合はそのつど話し合い希望に添えるようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調に気を配りながらゆっくりと休める環境作りに努めています。夜間落ち着かず、寝付けないときには一緒にお茶を飲んだり話したりしながら工夫しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の得意なこと、好きな事は何か、利用者の表情や言動から探し、無理なく自然に提供できるように支援しています。趣味等も職員が把握しておりさりげなく支援しておます。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は家族と相談の上、希望に添った方法をとっています。出来ない方はご家族と相談し、管理者がお預かりしてすぐに本人様がつかえるようにしております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や外でのレクリエーションを行っています。又食材として使用する野菜の収穫や畑の草取りなど職員と一緒にしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ・買い物など機会をみつけ外出しています。又帰宅願望のある方へはご自宅へも連れていっております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホール内に公衆電話を設置し、いつでも使用できるようにしています。自分で使用できない方へはできない部分を手伝っています。	○	絵手紙などにも挑戦していきたいと思っています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の訪問時には居宅やホールで一緒にお茶を飲みくつろいだりレクリエーションを楽しんで頂く等しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修・事業者内での勉強会を行いミーティング時に職員間での話し合いを行っている。拘束が必要な利用者様へは身体拘束に関する説明書・経過観察記録・再検討記録を作成しております。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に職員が目を離さないようにしていますが、一緒に出るなどして、戸締り以外の目的では鍵をかけないように心がけております。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	毎朝のミーティングで利用者様の状態をくわしく申し送り、職員全員の共通理解をはかっています。徘徊される方は、行動を抑制することなく寄り添い、安全にすごせるように努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の身体(ADL状況)・精神状況に応じてご家族の方と相談の上、管理させていただいております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様御一人おひとりのADL状況を把握し、転倒事故を始めとする事故管理につとめ、安全に生活できるように支援しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、緊急対策などの研修を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の協力で利用者職員で緊急災害対策の避難訓練を実施しています。又、地域の公民館長さんにも協力をお願いしております。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時、家族会、面会時などを利用して常にリスクについてはご家族の方に説明、ご理解をいただいております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は毎朝のバイタルチェックで対応し、異変についてはそのつど医療との連携をはかり、必要に応じて健康チェックを記録するなどしてみんなで取り組んでおります。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については職員の一人ひとりが理解するように努め、薬の辞典なども備えております。薬の変更があった場合など利用者様の症状を記録し、職員に伝え、医療機関にも経過など報告しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、排泄のリズムを把握し適度な運動・水分補給などに努め、ひどい時は医療機関とも相談して規則的な排泄ができるように努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎朝夕口腔ケアを行い必要な方には毎食後行っています。又、歯科医師の往診も必要時行い、口腔ケアの指導も受けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士さんの献立により食事を提供し、水分についてはテーブルの上にコップを置き飲んだ量がわかるようにしております。また飲めない方に関しては水分補給ゼリーなど利用して飲んでいただくように工夫しております。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員を法人・事業所で決め、毎月の会を行っています。インフルエンザや肺炎感染症のワクチン、採決なども行い、トイレや手すり・床などの消毒、居室の清掃にも気をつけております。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日業者からの新鮮な食材の購入、ホームの菜園を利用し、食中毒を予防しております。また殆どのものは火を通して使用しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のまわりに季節の花をうえたり花を飾ったりして環境を整えています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方の協力をえて折り紙等を使って季節の花を作ったり飾ったり壁飾りを作ったりして快適な空間作りを工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーをおいたり楽器をおいたりしているがホールが狭いので場所の確保が困難であるが最小限に工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの家族の状況や利用者様のADLの状況も考え、ご家族の方と話し合い、使い慣れたものをひとつでも持ってきていただきながら除々に整えるようにしております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に気をつけ温度調節も利用者様に合わせるようにしております。気になるにおいも小まめに掃除したり、脱臭剤を使うなどの工夫もしております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなど必要に応じて設置し、じぶんで行えるように工夫したり部屋づくりに心がけADLの向上につとめております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様のできること出来ないことを把握しつつ混乱や失敗の原因をよくわかり、本人の安心できるような声かけを行い、できるだけ自立して生活できる環境を作っています。職員もつねに話し合い、支援しております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で野菜を作ったり、花を植えたりして職員共々楽しんでおります。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

●利用者の認知症の周辺症状の軽減と日々の穏やかで笑顔のある生活ができるよう支援し、静かでのんびりとした環境の中でゆったりとしたじかんをすごせるように取り組んでいます。 ●同一法人の田畑クリニックの手厚い支援もあり、常に利用者様の立場にたった相談ができ、また24時間医療の支援を受けられることで職員も安心して仕事にとりくめます。 ●同一法人の田畑クリニックのDrが認知症サポート医ということで介護についての意見、指導もしていただき、より充実した認知症の介護を行うことができ、介護力の向上も望めます。